

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第8期第3回相模原市緑区区民会議		
事務局 (担当課)		緑区役所区政策課 電話042-775-8802 (直通)		
開催日時		令和7年1月14日(火) 10時30分～11時50分		
開催場所		緑区合同庁舎4階 集団指導室		
出席者	委員	19人(別紙のとおり)		
	その他	0人		
	事務局	5人(区長、副区長、他3人)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 区内視察結果について (2) 情報発信事業の進捗状況について 3 その他 4 閉会		

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。（◎は会長の発言 ○は委員の発言 ●は事務局の発言）

1 開会

緑区役所区政策課担当課長の進行により、会議の成立要件を満たしている旨の報告、会議公開の確認を行った。また、傍聴希望者がいない旨の報告を行った。

併せて、1月から変更のあった新任委員の紹介を行った。

2 議題

(1) 区内視察結果について

事務局から資料に基づき説明を行ったのち、意見交換を行った。

◎牧瀬会長

視察を行った森のイノベーションラボFUJINOについて、高橋委員から補足説明をお願いしたい。

○高橋委員

森のイノベーションラボFUJINOは、ビジネス支援や地域の課題を利用者や地域の方と解決に向けた取組をする場所として、運営している。利用者の半分以上は緑区の方だが、都内在住の会員や緑区外の方もいる。中山間地域の森林保全や鳥獣被害などの課題解決について、少しビジネス的に取り組みたいという方もいるので、そういった方の支援を行っている。もちろんビジネスだけでは難しい部分に関しては、ボランティア的な繋がりや、NPO、市民活動の支援を行ったりしている。今、観光的なことも考えており、陣馬山や高尾山という資源を活用した取組ができればと思う。また、緑区の西部は中央区や南区とは違って離れているので、橋本地区の方から、西側に来た事がない方もいると聞くので、西側と東側の交流も考えている。

◎牧瀬会長

森ラボの利用者の年齢層とどのあたりから来ているのか教えていただきたい。

○高橋委員

30～50代の方が各2割程度である。夏などの期間中は中・高生向けのイベントを行っているので、10代の方も来ている。また、当初は森ラボで始めて現在は地域おこし協力隊へ移行している、スマートフォンの困りごとなどを解決するスマホのデジタル支援活動もしているので、70～90代などの年齢層もおり、かなり幅広い年代の方に来ていただいている。

また、中・高生の勉強する場所がないことや、中・高生が地域の仕事と接する機会があると、戻ってきやすいというデータがあることを踏まえ、中・高生とその働き手の接点を作るといいのではないかということで、1月まで中学生に無料で使える日を設定するなどしている。そういった意味で幅広い世代に来てもらっていると思う。

どのあたりから来ているかについては、やはり近距離に住んでいる人の比率が高いと思うが、都心に家があって、こちらで自然体験の仕事を始めていきたいとか、そういうものを立ち上げていく活動のために通われている人もいる。

また、先日、相模女子大学の社会起業家のゼミの方とフィールドワークをさせていただいたが、定年前の方もいて、地域資源を活用したビジネスを立ち上げることに興味を持っている人もいるので、そういった方は緑区外からも来ている。オンラインの環境を用意しているのも、住まいは緑区で、会社はシンガポールにあり、国内に拠点がないので使っている人もいる。シンガポール、タイ、台湾など海外の会社の仕事をしていて利用している人が約1/4程度いる。

○猿渡委員

若葉台地区のグリーンスローモビリティについて、取組が見られてよかった。高齢者が多く、移動手段の課題がある地域に対しては、コミュニティバスといった手段でつなぐ方法も考えられるのではないかな。こういった地域活動の取組について、ミウルガチャに付いている観光情報などに加えてPRしていくのもよいのではないかな。また、個人の取組ではあるが、自身の名刺に緑区の写真を入れ、緑区をPRしている。

○池田委員

森ラボの視察の際にお話のあった木炭蓄電池の活動を行っている団体について、詳しく伺いたい。

○高橋委員

元々ベースとして、「Class For Everyone」という所が日本の企業から寄付していただいた中古のパソコンをクリーンアップしてアフリカへ持って行くという活動を行っている。個人的に関わっている「藤野電力」という地域活動があり、そこでバッテリーを使った発電機キットみたいなものを作っている。

アフリカは約8億人が非電化地域に住んでいると言われているが、スマホの電波は飛んでいて、非電化地域にもスマホを所持している人がいる。電気がない学校だと、先生は1時間かけて隣町まで行って充電し、1時間かけて帰ってくることをしていて非常に不便な状態である。そこで、一緒にその発電キットのノウハウを輸出するのが最初の取組だった。今でもその活動は継続的に行っており、現在は移動式のキットにしている。島根県の松江市にある高等専門学校ではセブンイレブンから補助金をもらい、炭電池を開発して実証を進めている。鉛に比べると4~5倍くらい物量を取るが、炭を砕いて固めて粉にして水溶液につけると蓄電ができると伺っている。まだ炭を固める方法は確立していないが、焼却炉とか簡単な設備でもできるようになると、その手法などを現地に伝え、現地の人達に実施してもらおうという話がある。バッテリーの一部がリチウムなので、金属の環境負荷も考えると炭だと土に還りやすいし、半永久的に使えるのではないかなという話もある。

「Class For Everyone」は、昨年10月には毎日新聞社の日韓国際環境賞と呼ばれる日本と韓国の環境の取組を表彰する賞を受賞した。また、地域では炭焼きを復活させているチームもあり、ナラ枯れなどの木を炭にして使うことで、カーボンオフセット的なことを考えたりする取組もできるのではと思う。炭を砕いて固める専用の窯が1,000万円ほどかかってしまうので、もう少しアフリカなどの地域でもできるようなやり方を考えていきたいと取り組んでいるところである。

●山下担当課長

委員の任期中に1回区内視察を行っているが、前期の第7期においては、ただ施設を見学するような視察であったため、もっと地域で活動している人のところへ行って話を聞くような視察がいいのではないかという意見があったことから、今回はこのような視察内容としたところである。内容的にはいかがでしたでしょうか。

○猿渡委員

リニア等の進捗状況を直接聞いたのがよかったと思う。また、地域で活動する人達の話を見て聞くことができ、中身の濃い視察であったと感じた。

○河津委員

視察に行く目的が正直分かりづらいと感じる。視察を行った上で、そこに対しての解決策を出すなど先の展望があるのならば、視察する意義はあると感じるが、行っただけで終わってしまっているのだとしたら行く意味について疑問を感じてしまう。

●椎橋区長

一般的には視察は課題解決に有益であり、例えば自分の地域等でしたことがないことを見て学んで取り入れ、自分たちのものとして考えていこうとか一般的にはそういったケースが多いのかと思う。皆さんの中での課題、今後の緑区をもっとこうしていきたいということがあって初めてそういうところが出てくるのかなと思っている。今回は、皆様方からのご意見をもとに、実際にただ単純に建物のみを見たということではなく、取組という中身を見ることを中心にやってみたということになるので、もともと課題がないということであれば、ご意見をいただきながら、確認して考えていく必要があると考えている。

○河津委員

視察に行った結果の後は何もないのか。

◎牧瀬会長

個人的な意見だが、次回以降は緑区基本計画の進捗状況に入っていくので、その審議の際に現場を見ていた方が審議しやすいと考えている。

○池田委員

緑区は広いので、バスの移動時間が長くなってしまう。プログラムが4～5個

あるとそれだけで移動時間の方がかかってしまう。そのため、実際に現地でゆっくり話を聞く時間が必ずしも十分とれないということがあると思うので、次回からは2か所くらいで十分なのではないかと考える。例えば近い地域であれば地域の方に直接来ていただき、少しゆっくり時間をかけて話を聞くようにすれば時間のロスもなくなるのではないかと思う。

先ほど河津委員からの視察の問題提起については、視察という所の意味合いについて、見ることも大事だが話を聞くことがメインだと思うし、課題ありきである程度見に行く場所が設定されているという見方ができるかもしれないが、自分たちが話を聞いた内容・結果がどのように区民会議の検討課題に直接活かされているのかピンとこないのが一番感じているところ。例えばグリーンスローモビリティも若葉台地区の問題だけではなく、ほとんどの地域でこう言った共通の交通問題があり、同じ課題に対して違うアプローチをしている所もあるので、こういった場でそれを突き合わせる場として組み換えを使う必要があると考える。先ほどの木炭蓄電池の話もそうだが、地域の中で環境対策、ナラ枯れ対策等々も含めた活動の技術がアフリカの支援に繋がり、国際的なある種の技術移転みたいなそんな活動をしていると認識している。そういった地域活動が国際的な行動を起こすことに繋がる発信地となって頑張っているということは、この地域の若い人たちにアピールになると思うので、こういう所で組み換えを通して何か発信していてもよいのではと感じた。

○原委員

第7期までの区内視察先や過去の意見の反映状況など過去の記録についても伺えられればと思う。

藤野地区の篠原の里によく行っている。あそこは非常にコミュニティづくりを頑張っているところで、20周年記念バス旅行で山梨県の小菅村に行ってきた。そこは道の駅もあり、観光で盛り上げているところである。ただし、感想としては光と影を感じた。というのは、50%以上の人が観光のサービス業に携わっている状況であり、その村の生業の中で観光がなくなってしまうとビジネス的に大変な状況になってしまう。

篠原の里では炭をやっており、持続可能な取組をしているのでそういった取組を行ってみて聞くというのも一つかなと思う。中山間地域をどう維持するのかという取組を見に行くのもいいのではないかと思う。

観光協会は、いろいろな市町村と接する機会があるが、東北の気仙沼市は震災後も観光振興でつらい厳しい状況から頑張っているが、彼らが地域おこしとして考えたのは少し視点を広げて他とのつながりを持つということやオンリーワンを考えるということなどを挙げられていて、地域おこしの最大のポイントは人の繋がりであり、良い風土、良い人たちが来るところに人が来るという話があった。様々な人とふれあえるような視点も大事ではないかと感じた。

◎牧瀬会長

過去の視察資料について確認していただき、資料として後日配布をしていただければと思う。

○高橋委員

本当にその意見がどのようになったかというのは、重要な視点だなと思っているが、今回、先ほど人の繋がりという話があったが、委員の皆さんとの繋がりみたいなものが、1日一緒に行動させていただき、お話ができたので、そういった点でもそのコミュニケーションという意味では、始まってすぐ実施していただくと新しいメンバーとしては入りやすかったもので、そういった効果も視察の要素にはあるのかなと感じた。グリーンスローモビリティも、ボランティアで続けられるのかとか、無料でいけるか、横展開できるのかとか、そういった課題もあったので、そういったものを委員の皆さん、あと皆さんの背景にある皆さん、我々年代も異なっている中で、どういったご意見があるのかっていうことをちゃんと上げていき、反映して管理をすることがすごく大事だなということ、改めて感じた。

また、猿渡委員が言っていた名刺の話は広報的な意味合いがあると思うが、頑張っても限られた届き方や見ない世代もいるので、この委員の皆さんと各団体の繋がりがある中で、他の取組を見たことを団体内でも伝えていただくことで広報的な方法もあるのではないかなと思う。そういった視点で、見ていただいたものをちょっと出していただくと、興味を持ってもらえたら非常に、経済価値があるし、そういうところを話してもらうことも大事な方法かなと思っているので、そういった部分を視察の効果としてはあるのかなと感じた。

(2) 情報発信事業の進捗状況について

事務局から資料に基づき説明を行ったのち、意見交換を行った。

○猿渡委員

このような形で情報発信するのはいいと思う。例えば、大学生たちに市で作成した70周年記念動画のような緑区のいいところを紹介する動画を1つ1つ短く紹介するなどしていただけたらいいと思う。中山間地域だけではない地域の違いの中での取組というのもわかるし、緑区を一体化として考えて情報を発信していくことでもっと緑区を知ってもらえるようになるのではないかなと感じる。

○原委員

観光マップは、何度も作成した実績があるが、印刷コストもかかることを踏まえて意味のあるものを作っていたきたい。

相模原市にある陣馬山や景信山は、観光マップに盛り込まれているが、あれだけの観光客が来ている高尾山と繋がっているのに、八王子市だからといって相模原市の観光マップには載っていない。こういった行政のシステムはどうすべきか、いろいろなケースがあると思うが、自然というのは行政区で区切るわけではないと思うので、その周辺も盛り込むなど、見る人のことも考えた地図を検討してもらえればと思う。

○山本委員

中山間地域で狩猟などの動物の問題とかナラ枯れの木を使った炭など様々な取組の話があると思うが、視察の件もそうだが視察をして政策に反映していくことは大切だと思う。また、若い世代に対して体験や1泊してもらい、頭から入るのではなく、五感で感じていただいて喜びや楽しみを感じてもらった方がよいと思う。もちろん都会に出て行ってしまうのは仕方ないと思うが、いつか戻って来なくなるような魅力を若い10代の段階で感じてもらえたらいいなと感じた。

移住はしてきていないが、わざわざ遠方から緑区へ遊びに来られる方も多い。そういった方々も地域の方とは接点が薄いかもしれないので、そういった方々に対して温かい目線で見守っていければ、移住される方々も増えていくのではないかと感じた。こういったマッチングの間に立つというのが、もちろん地域おこし協力隊の方々も頑張っているが、もう少し母数が増えていくなど、うまくいけばいいなと感じているところである。

◎牧瀬会長

今の話の中で関係人口と定住人口の間のマッチングがすごく重要ではないかという話だと思うが、それ自体を緑区が今すでに行っているのか、あるいは講師がいるのか教えていただきたい。

●椎橋区長

話があったとおりに立つ人という意味では、森ラボの活動なども今そういうところにあると思いますし、あるいは藤野地区で言うと観光協会の方々も今、移住促進の中では、こちらに来た人に非常に熱心に地域の情報も含めて案内していただいている。ただ、山本委員がおっしゃられた内容としては任務としてだけではなくて、一般の方々も含めて接している中ということもそのとおりであると思った。高校生のアンケート結果でも出ていたとおりの良さ・温かみという点についてはとても感じるので、実際様々なお祭りやイベントで接して下さって、そういうところを感じていただいている部分はあるのではないかなと思います。もっとそういうところを前面に打ち出していくとか、もっとそういう場を増やしていく、あるいはさせていただく、そういう特化した方を増やしていくような取組ができるかという点ではないかなとご意見を聞いていて感じた。

○高橋委員

高校生の区民会議について、今後も継続して続けていくのか、いただいた意見をどう反映していくのかを伺いたい。

●山下担当課長

今回、高校生を対象に開催したので、次回は区内在住の大学生や小・中学生など他の年齢層という考えもあるが、実施の有無を含めて区役所内において検討中で、詳細は決まっていない。今年度実施した際に日程調整が非常に難しかったため、その辺りも含めて検討している。

○高橋委員

高校生を集めるのは難しいところもあると思うので、公募型にする方法もあるのではないかと。あと非常に貴重なご意見とは思いますが、大人に聞いても重なるところもあると思うので、移民の話やVRの話など特異なところも包括して考えてみると良いと思う。あえて高校生とか低学年でやることとの違いをどう活かすのかということのをうまく反映できるといいのではないかと感じた。

○猿渡委員

区民会議の開催周知について、緑区合同庁舎1階に来庁者にも分かりやすい周知方法を取った方がいいと感じた。またタウンニュースなどに区長のインタビューが出ていたので、こういったものを配っていただけるといいと思う。また大学生はインターネットを使える方が多いので、緑区内の各施設の魅力をX、インスタ、ZOOMなどで伝えるなどの方法もある。緑区での観光マップをリニューアルするときは、高齢者も多いのでバリアフリーに考慮し、陣馬山などの観光資源のバリアフリールートを検討したり、また、緑区合同庁舎までの道のりの地図が小さく見づらいので、分かりやすくしていただきたいと思う。また、総合事務所を大きくしてどこが管轄しているか分かりやすくしてみるといいなと感じた。

◎牧瀬会長

区民会議は3期目に入るが、以前は傍聴者が多くいたと感じているので、広報するとともに、委員の皆様方からも、こんな会議をやっている等、アピールしていただきたいと思う。

6 その他

今回は、令和7年3月25日（火）午後3時から予定

7 閉会

相模原市緑区区民会議委員出欠席名簿

(順不同・敬称略)

区 分	氏 名	所 属 団 体 等	出欠席
まちづくり会議	○森 誠壽	橋本地区まちづくり会議	出席
	佐藤 金男	大沢地区まちづくり会議	欠席
	小島 盛生	城山地区まちづくり会議	欠席
	熊谷 弘	津久井地区まちづくり会議	出席
	河津 暁	相模湖地区まちづくり会議	出席
	宮野善三郎	藤野地区まちづくり会議	出席
関係団体	松井 光臣	相模原市22地区社会福祉協議会緑区連絡会	出席
	立川 直子	相模原市民生委員児童委員協議会	出席
	佐藤 稔	相模原市PTA連絡協議会	出席
	池田 孝夫	相模原商工会議所	出席
	森下 裕司	津久井地域商工会連絡協議会	出席
	原 幹朗	公益社団法人相模原市観光協会	出席
	沼尾 将輝	公益社団法人相模原青年会議所	欠席
	畑野 栄久	公益社団法人津久井青年会議所	出席
	高橋 靖典	一般社団法人藤野エリアマネジメント	出席
	山本 祐子	特定非営利活動法人ふじの里山くらぶ	出席
	前山 善憲	特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら	欠席
学識経験者	◎牧瀬 稔	関東学院大学法学部 教授	出席
	池田 寛二	法政大学社会学部 名誉教授	欠席
区民	猿渡 達明	公募委員	出席
	高村 るみ	公募委員	出席
	山下友梨子	公募委員	出席
民間事業者	奥平 麻由	相模湖リゾート株式会社	出席
	櫛見 大	東日本旅客鉄道株式会社	出席
	山口 稔	神奈川つくい農業協同組合	欠席

◎は会長、○は副会長